五位組だより
２０１７年
（平成29年）
９月１５日
念仏のこころに生きる生活を
浄土真宗本願寺派
高岡教区　五位組
題字・織田隆夫

福島県飯館村の子供たちがお寺でホームステイ

教願寺　若院　岡西好持

ことしも五箇山に行きました。

八月四日から七日までの三泊四日の日程で、高岡教区の主催する「福島の子どもたちのためにできることプロジェクト夏休みホームステイ」が開催され、飯舘村吉倉宿舎の子ども十七名を含む二十二名五世帯が来県し、教区内寺院に分宿してホストファミリーや組内の方々と交流を深めました。

五位組では、長光寺さんに大谷香代子（おおがい　かよこ）さんご一家四名がホームステイされました。今回で六回目となるホームステイに毎回参加されている大谷さんは、五日に長光寺で催された交流会の中で、「もう長いお付き合いになる長光寺さんと組内の皆さんにお会いでき、もう一つの実家に遊びに来ているみたいで、楽しく過ごさせてもらっています」と笑顔でご挨拶されました。

ところが現状についての報告に話が及ぶと表情が一変され、「今春に、『帰村宣言』がなされ、一部地域を除いて避難解除になった飯舘村ですが、お店もなく、現在の通勤通学に不便な上、除染作業で出た汚染土は未だに村内に山積みで『もう村には戻らない』と決意された家庭も多い」「帰りたいけど帰って生活できる状況ではない」と厳しい状況を報告されました。特に印象に残ったのは「飯舘村出身だということを話せない」というお話でした。『補償金をもらっている』と、避難生活者に対する風当たりの強さや偏見は、未だに様々な場面で実感します。飯舘村出身であることを積極的に明かせるような状況ではありません。飯舘村ではない市内の学校に転校・進学する子どもたちのことが何より心配です」と一つ一つの言葉を絞り出すように話される様子からは、六年という歳月の重みと苦悩が伝わってくるようでした。

阿弥陀如来が法蔵菩薩であった時に五劫もの思惟の末に「互いに傷つけ苦しめあうことなく、互いが助け合い尊重しあう世界を」と願われたのは、人間を最も傷つけ苦しめるのは同じ人間であり、人間を最も助け支えるのも同じ人間であるということなのではないかと受け止めています。

被災された方が苦しんでいるのは汚染や経済的問題だけではなく、無知や偏見からくる白眼視です。すでに吉倉宿舎を出られ新たな生活に入った方々も多くなる中で、このホームステイ事業が飯舘村の皆さんにとって大事な繋がりと支え、励ましになっているとの声も聞かれました。

阿弥陀如来の願いをいただく私たちが、歳月が経ち、世間から忘れ去られようとしているこの問題にどのように向き合っていくのか、そんなことを考えさせられたホームステイでした。

五位組仏教婦人会連盟総会　光明寺仏教婦人会　杉森由紀子

五位組仏教婦人会連盟の総会は、組内仏婦六単位合同で、二年に一度開催され、今年は七月二十三日佐加野光明寺で行われました。あいにく雨天でしたが、山岸組長様をお迎えし、参加者六十数名で讃仏偈をとなえ、仏婦綱領を唱和しました。

大平先生の高岡市民の歌「ふるさと高岡」や懐かしい童謡のメドレー「小さな四季」を聞き、その美声にうっとりしました。また、「〇△□のうた」は、私達一人一人が大きく深い願いの中に生かされているという素晴らしい讃歌で、参加者みんなが本堂に響き渡る大きな声で歌い、五位組仏婦全員の意気とつながりが深まったようで心強く感じました。

砺波組明覚寺住職林要昭先生の法話『旅は楽しく　荷物は軽く』は、ユーモアあふれる中、み仏の心が伝わり、なんだか心がほんわり温まるような気がしました。

今日の御縁を大切に、未来ある子供たちを見守りながら仏様の教えを伝え、聴聞を重ねることで五位組仏教婦人会員のつながりを深めていけたらいいなと思いました。

自坊紹介　応珠山　性宗寺　高岡市福岡町　赤丸

昭和二十七年、古い過去帳表紙の中張にある記録を発見した。

その過去帳の表紙に、文正元年（一四六六年）捨命日記とある。捨命日と言う言葉は新しい言葉である。住職の個性的表現とみるか、中世に用いられていた言葉であったのか？ただ今日使われている命日と言う言葉は、誰が見ても不審に思いながら使われているのである。

法名善通が一四六六年に寺谷内（赤丸）に真言宗浄光庵を創立したとある。

一五二〇年、実如上人より浄光寺の寺号と「和讃」、光仙丸様（後の証如上人）より「九字名号」を賜っている。

平成一六年、本堂修復の折、本尊阿弥陀仏の光背を外したら、寛文五年（一六六四年）東本願寺の上原数馬名で下賜されたことが明らかになった。門徒制度が発足したのは一六三四年である。性宗寺の過去帳の最初の法名は、一六三九年のものである。今年は二〇一七年であり、この三八〇年間に記録された法名の総数は二千二百人ほどですから、一年に六人程度になる。

江戸の初め、二十余戸の門徒数が昭和の時代に百戸ほどになり平成の今は八十戸に減ってきている。寺一ヶ寺が立っていくために三百戸の門徒数が必要とされているが、私どもの寺は厳しい立場にあります。

報　恩　講　ご　案　内

各寺院の日程順に記載してあります。

どうぞお誘い合わせの上、お参りください。詳細については、各寺院にお問い合わせ下さい。

石堤　法善寺
九月三十日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
十月一日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　高岡市舞谷　**麻生　達乗　師**
※　一日は永代祠堂経法要

上向田　浄永寺
十月三日　昼　一時三十分
十月四日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　小矢部市西中　**平野　信教　師**

赤丸　性宗寺
十月十一日　昼　一時三十分　夜　七時
十月十二日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　射水市市井　**公文名　眞　師**

四日市　浄明寺
十月十四日　朝　十一時　昼　一時三十分
夜　七時
十月十五日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　高岡市内島　**岡西　法英　師**
※　十四日は永代祠堂経法要

中保　善教寺
十月十六日　朝　九時三十分　昼　二時三十分
法話　高岡市泉町　**現影　顕正　師**

辻　西福寺
十月十六日　昼　一時三十分
十月十七日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　高岡市伏木　**山名　一徳　師**

立野　永念寺
十月二十日　昼　一時三十分
十月二十一日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　高岡市土屋　**山岸　智史　師**

三日市　光源寺
十月二十二日　昼　一時三十分　夜　七時
十月二十三日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　高岡市土屋　**山岸　智史　師**

本保　本正寺
十月二十六日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　高岡市内島　**岡西　法英　師**

佐加野　光明寺
十月二十七日　昼　一時三十分　夜　七時
十月二十八日　朝　九時三十分
法話　高岡市内島　**岡西　法英　師**

内島　教願寺
十月三十日　昼　一時三十分　夜　七時
十月三十一日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　高岡市佐加野　**磯原　孝雄　師**
※　住職継職法要と兼ねる

石堤　長光寺
十一月一日　昼　一時三十分
十一月二日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
夜　七時
十一月三日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　氷見市布施　**圓山　望　師**

笹川　廣済寺
十一月五日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
夜　七時
十一月六日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　高岡市伏木　**山名　一徳　師**

麻生谷　西光寺
十一月七日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
夜　七時
十一月八日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　氷見市脇　**寺西　良夫　師**

山岸　珉照寺
十一月十六日　昼　一時三十分
十一月十七日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　氷見市泉　**伯水　永雄　師**

舞谷　永賢寺
十一月二十三日　朝　九時三十分　昼　一時三十分
法話　富山市婦中町　**竹中　了祥　師**

第十九回　五位組夏休み子ども大会　　高岡市立野　永念寺　福澤庸二

今年で十九回目の開催となる五位組夏休み子ども大会が、八月十日午後四時に立野の永念寺で行われました。

本堂でのゲーム・けん玉ショー・讃歌指導の後、夕食にお好み焼きを食べ、暗くなってからは怖い話や肝だめしを行いました。

今年初となるけん玉ショーはアクロバティックで、今まで見たことのない凄技が繰り広げられ、子供たちも見入っていました。

去年から行っている怖い話や肝だめしも、大変評判がよく、とても人気でした。脅かし役として小学校高学年と中学生にも参加してもらい、とても楽しんでいただけたようです。

スタッフ手作りのお好み焼きは大変好評でしたが、参加者が多く少し足りなかったのが反省点です。

後日、参加された親御さんや子供たちから「また参加したい、凄く楽しかった」と嬉しい声を頂きました。

楽しみの中で、お寺をより身近に感じてもらえればよいと思います。

お手伝いして下さった門徒総代会、門徒推進員の方々ありがとうございました。

けん玉ショー

ゲーム

夕　食

肝だめし・脅かし役のみなさん

五位組行事予定

実践運動研修会

二〇一八年（平成三十年）二月二十日　午後三時

珉照寺にて

編集後記

今年の夏は、異常気象により各地で災害が起き多くの人が亡くなり、悲しみに暮れる今日この頃です。

当五位組では今年も多くの行事が行われている中、五位組夏休み子ども大会が開催されました。

当日はたくさんの子供たちの参加があり、元気な様子を見ることができました。本堂でのお経のおつとめ、作法やゲームが楽しく行われ、夜は屋外で肝だめしがあり、雨にもあわず元気に飛び回る子供たちの姿がありました。私も手伝いとして参加でき良い一日を過ごすことができました。

又、今年の全国講社大会が本願寺で行われました。スローガンである『和顔愛語』を通して、「うけつぐ伝灯　伝えるよろこび」を今後の子供たちに期待したいと思います。

合掌

五位組だより　第15号　平成29年9月15日発行
発行所　五位組組長事務所（土屋　珉照寺内）／　編集・制作　五位組門徒推進員協議会